

私は、自由民主党川口市議会議員団を代表して、ただいまの委員長報告どおり決することに賛成の立場から、常任委員会にて反対があった議案について、以下、討論を行います。

総務常任に係わる議案のうち、79号、81号、82号、83号に反対がありましたが、委員長報告でも報告がありましたように、反対内はというといずれも「建築には時期尚早」、「今建設すべきではない」と、従来の姿勢を崩さない反対意見には、従来から何年も前から何も変わっていないんだと、少々残念な思いです。昨年12月議会で、議員の8割の賛成をもって可決された美術館建設なので、議会人として今回の議案にはそれなりに真摯に向き合っていたと感ずきたく感じました。

では、各議案について申し上げます。議案第79号「令和6年度川口市一般会計補正予算（第1号）」のうち、総務常任委員会に係わる、歳出の部、第2款総務費、第1項総務管理費のうち、第32目文化推進費つきましては、美術館の円滑な運営且つ、美術品の適切な収集を行うため、既存の美術品選考会議の廃止にともない、こ

れに係わる報償金を皆減、さらに新たな組織体として美術館運営審議会及び美術品等選考評価委員会の設置にあわせ委員報酬等を計上するものです。美術館においては、折しも、この7月から建設工事が着工する運びであり、令和6年3月定例会では美術品等取得基金も創設され、確実かつ効率的な基金運用がなされています。今まさに、美術館開館に向け、新たな局面を迎えているなか、当該補正予算は正当性があり適正なものであると判断し賛成いたします。

次に、議案第81号「川口市立美術館運営審議会条例」につきまして、当審議会委員には美術関係者や知識経験者のみならず、公募による市民も含めて構成されています。専門的な見地だけでなく、美術館に対し市民が求めていることなど、多様な意見を集約しながら、より良い美術館運営になるものと期待し賛成いたします。

つづく議案第82号「川口市美術品等選考評価委員会条例」こちらは、高度な専門性に基づく知識や経験を要するため、市民公募は行いません。一方で、これまで「公正な審議に支障が生じる」として、非公表とされたきた委員の氏名が、当条例では公表されるとのこと。公立美術館としての新設にあわせ、寄贈を受け、又は購入する場合には、各委員の専門性や背景を明らかにすることで、意思決

定のプロセスを明確にし、透明性を高めようとする本市の姿勢は、きわめて誠実なものであり、市民からの更なる信頼性向上にもつながるものと考え賛成します。

さらに議案第83号「川口市立美術館設置及び管理条例」について、美術館の建設が着々と進むなか、具体的な管理運営のために当条例は必須のものであり、反対の余地はございません。さまざまな協議を経て、（民間の有するノウハウや他館とのネットワークを用いて、優良な企画の実現が期待できることから）指定管理者制度を導入するとのこと。館長や学芸員も市としての採用ではなく、指定管理者が選定するということですが、現在、文化推進室に市職員の学芸員が1名在籍しておりますので、博物館法に則り、社会教育施設として、作品の収集・保管、展示・教育、調査研究を行う機関としての矜持を常に持ち、公立美術館が担うべき役割を真っ当に体現していただくことをご期待申し上げます。

この度の質疑のなかで、年間来場者を15万人と想定していることが示されました。年間稼働日で割り返すと1日当たりおよそ490名程度であり、重みのある想定目標です。本市は、長年、埼玉県美術家協会会長を務め、日本の洋画界を牽引してきた塗師祥一郎氏

の作品約 60 点を収蔵していますが、平成 31 年にリリアで寄贈作品展を開催したところ、8 日間の会期で約 2 5 0 0 人が来場しております。1 日あたり 3 1 0 人弱の方々がおいでになったということです。新たな美術館においても、今後さらに収蔵コレクションの充実を図り、魅力ある企画展の開催とともに、インクルーシブアートの浸透を目指した教育普及や学校連携に意欲的に取り組みながら、集客を高める（よう努めていただきたい）ならば、15 万人というのは、決して遠い数値ではないと考えます。

次に、ランニングコストについて申し上げます。

今回、運営維持のための経費として年間約 3 億円という数字が示されました。美術館建設には、常にランニングコストについてのご批判があることは承知しております。参考までに、他市の同規模美術館では約 2.5 億円程度であると、これまでの議会でも答弁されてまいりました。これを税金の無駄遣いと捉えるのか、必要経費とみなすのか。もちろん、市民の皆さまが納めてくださった税金ですから、青天井で支出して良いわけはありませんが、ここはもう越えられない価値観の違いと言うよりほかありません。

川口総合文化センターリリアでは、新設当初には反対の声もありましたが、33年間にわたって市民と地域の文化芸術の向上を目指して運営した結果、今では、美術館建設以上の費用がかかる大規模改修でさえも、必要なものであると望まれるほど、市民にとって必要不可欠な施設に成長しました。新たな美術館も長期的な視点で俯瞰し、リリアのように市民に愛される施設にするべく、30年先の未来像を意識したならば、これは決して無駄な経費などではありません。

今の反対討論のなかでも、やはりまだ美術館建設費20億云々というご批判がありました。私は昨年12月本会議でも討論内でも申し上げましたが、この20億というのは令和2年6月に初めて上がった数字であり、あれから建設場所も建築工法も大きく変わっています。なにより、昨今の物価高騰により資材単価や労務単価上昇分を考えると、それだけでかなり建設費は上昇しています。こうした変化しつづける現実を目を向けず、4年前の20億円という数字だけをいまだに独り歩きさせる反対派諸氏の姿勢には、大きな違和感を覚えます。

さて、川口市は今年2月8日、JR川口駅再整備の基本計画案を
発表しました。川口駅西口側に新たにホームを作り、上野東京ライ
ン停車の構想を打ち出したのは周知の通りです。旧そごう川口店の
後継施設の開業や、川口西公園の再整備、そしてリリア大規模改修
に合わせた美術館建設など、複数のプロジェクトを盛り込んだ一体
感ある駅周辺の再整備が進められています。こうした一大プロジェ
クトの一環として事業進捗するリリア大規模改修と隣接して建設さ
れる美術館です。財政的な面においても相乗効果がない訳がばく、
これら工事の有効性を理解できないとして反対されることは、非常
に残念なりません。

他事業の計画や進捗も勘案しながら、美術館運営の骨子が組み立
てられ、今定例会では美術館に関する補正予算、各条例が上程され
ました。「遅い、まだか、早く出せ」と一部の方が盛んに仰ってい
たものが、今ここに上程されたにもかかわらず、建設そのものをい
つまでも否定する、いわば反対のための反対という姿勢には疑問を
感じざるを得ません。

すでに本市には約220点の川口ゆかりの作品が所蔵されており、
早期に適切な場所で管理・保存されることが待たれます。市民との

共有財産であるこれら美術作品を展示公開というかたちで、市民の皆さんの生活に彩りを添えながら還元していくことこそ、公立美術館としての役割です。来月からいよいよ建設が着工します。「美術館に関することはすべて反対」と切り捨てるのではなく、ここに至っては是非、より良い美術館にするために上程議案と真摯に向き合い、知恵を出し合いながら実りある議論につなげていきたいと切に願ひ、今後も開館までのスケジュールのもと、粛々に職務に邁進していただきたく美術館にかかわる全議案に賛成いたします。

その他の常任委員会に係わる補正予算案、一般議案及び契約議案等の諸議案についても、すべて適正なもの判断し、私の賛成討論といたします。ご清聴ありがとうございました。